

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200365		
法人名	社会福祉法人 美野里会		
事業所名	グループホーム輝陽園		
所在地	千葉県柏市酒井根69-1		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成29年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設は静かな住宅地内に敷地面積3,000㎡以上あり、季節の花や木々も多く敷地内を散歩するだけで自然を感じることができます。建物も鉄筋コンクリート構造で災害にも強く防音にも優れています。施設の近くに小、中学校や幼稚園があり、演奏会やお遊戯会等で交流も盛んに行われています。また、町会の行事(夏祭りや文化祭等)にも積極的に参加し、ボランティア等で町会の皆様も施設に訪ねていただいています。居室の広さは全室13㎡以上で冷暖房・3モーターベットの自動温水洗面台が完備されており、</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム輝陽園」はケアハウス・小規模多機能施設が併設されており、行事開催時や日頃の行き来等で交流を図っている。近隣には同法人の特養養護老人ホーム・デイサービス・訪問介護・居宅介護支援事業所があり、必要時には、相談・連携を図る等、入居者のニーズに合わせた柔軟な対応が可能となっている。地域交流スペースの開放・ボランティア・行事招待等、様々な形で外部の人達と積極的に交流を行い、地域とは良好な関係を築いている。市のグループホーム連絡会の一員として、市職員及び同業者と意見・情報交換をする機会を定期的に行っており、市の福祉ニーズの把握及びサービスの質の向上に繋げている。施設の敷地内にグループホーム専用の畑があり、収穫された野菜を活用しており、旬の食材や新鮮なものを取り入れる等、食事が入居者にとって活動の張り合いとなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1度開催される法人全職員を対象とした会議でも、理事長から理念の話や説明があるとともに、管理者からは新人職員を中心に理念の説明を行っている。	「利用者一人一人に寄り添い話を聞く・地域の中での生活を支援する」という理念を掲げており、事業所内に掲示している。年1回開催される全体会議や新人研修では必ず取り上げており、全職員に理念の周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に利用者が参加するだけでなく、物品や場所、職員も行事の手伝いに積極的に参加している。結果、利用者に対して地域の行事への誘いが多くなり、交流が盛んになっている。	地域住民とは挨拶や声掛けを交わす関係を築いていると共に、施設内に地域交流スペースを設け、地域の人達に開放する等、地域交流を積極的に行っている。また、保育園・小学校行事の見学や地域住民・家族の施設行事への招待等が行われており、近隣の人達との交流機会を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の研修の場として地域交流スペースを利用していただき、施設の説明や現場の見学をされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各委員にそれぞれ意見をいただき、報告が必要な事項に関しては次回会議開催時に報告している。	運営推進会議は年6回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・小学校校長・ボランティア・家族等が出席している。会議では、施設活動報告や意見・情報交換等を行い、施設理解の促進及びサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは市の会議や連絡会に参加することで意見交換をしやすい関係を築いている。また、規程に関すること等の質問や疑問も電話等で相談できる関係を持っている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っており、連携を図っている。また、市のグループホーム連絡会に参加しており、会議を通じて、市と意見・情報交換を行っており、サービスの質の向上及び運営の適正化に繋げている。	

【千葉県】グループホーム 輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが美野里会の理念であることを、年に1度法人全体会議内で全職員を対象に研修を行っている。	身体拘束排除・虐待防止・権利擁護等の外部研修に参加し、職員への理解を深めている。日中は玄関の施錠を行わず、声掛け・見守り等で安全確保に努め、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市が主催する虐待防止の研修に毎年必ず法人の中から職員が参加し、その資料をもとに全職員に情報を伝達している。新人研修のなかにも必ず虐待防止の研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の運営する各サービス事業所同士、担当者会議等で成年後見人制度を利用されている利用者に関して情報交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者と担当計画作成者が立ち合い行っている。契約書の説明の他、重要事項説明書を中心に料金や緊急時の対応等丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族や利用者の意見ができた場合は記録として開示している。また、意見箱を設置しており、投稿があった時にはやはり運営推進会議で公表している。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議時に直接意見・要望等を確認している。また、広報誌の配布・施設行事への招待等を通じて、家族とコミュニケーションを図りながら意見の言いやすい関係作りに努めている。挙げた意見・要望等においては、会議や申し送り等で周知・検討の上、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議を開催し、自由に意見を述べる機会を確保している。会議は会議録を作成し、開示することで全職員が確認をすることができる。	定期的な会議を開催しており、職員の意見・提案を確認する機会を設けていると共に、管理者が個別に話を聞く機会を設けており、意見・思いの把握に努めている。休憩・休暇が十分に取れるよう配慮すると共に、希望や能力に応じた人事異動を行っており、働きやすい職場環境の整備及び人材の確保に取り組んでいる。	入居者の今後の身体機能の状態変化に備え、安全な食事提供に向け、見守り・介助方法・人員配置等を再検討して頂き、入居者の安全の確保や職員の負担軽減に繋がる取り組みを期待します。

【千葉県】グループホーム 輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長か管理者が、毎年1回全職員と個別で面談をしている。また、月1回衛生委員会を開催し職場の環境の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は他施設との交流や市役所との連携に積極的に行って情報交換している。各職員は職員会議の際、行ってほしい研修の希望をきいて研修の企画等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員ともにグループホーム連絡会や介護サービス協議会の研修や交流会に積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始初期は、慣れない環境のなか不安で混乱しやすいことから見守りや声掛けを多く行い、記録も細かく記入することで全職員に情報を提供する。できる限り1対1の対応で安心し、早く生活になれてもらうよう援助する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面接時から、自宅等での生活状況や生活歴等を伺っていき、家族等のニーズを把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態をみながら、必要時に歯科受診やマッサージ・リハビリ等のサービス紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や得意な事に残存機能を考慮しながら、日々の生活の中でできることをお手伝いしていただいている。また、歌や物づくりの活動を通して同じ趣味の方と交流が保てるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や本人の気持ちの変化等、普段と異なる様子の時にはすぐに家族と連絡をとり相談を行っている。家族が面会された時も近況を詳しく説明し、居室や食堂等で本人と面会者がゆっくり過ごせるよう援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近隣の方や昔からの友人が訪ねてこられることがあり、いつでも来園していただけるよう声掛け等の配慮を行っている。	希望に応じて、知人・友人・家族の訪問を随時受け付けていると共に、手紙や電話のやり取りも自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、同法人の施設利用者との交流の機会も多く、新たな馴染み関係の構築にも繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	週に1回の合同デイサービスや他の行事の際に、全利用者が参加されゲーム等の楽しみながら交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設に入所された方も、必要時には相談を受け必要サービスの紹介等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会をみて1対1で会話をし、各個人の希望を会話の中からみつけている。また、意思疎通が困難な利用者は、家族の意見を聞いたり本人の日常生活の様子をみながら判断できるよう努力している。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況を確認すると共に、医療機関や他サービス事業所からの情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、入居後も職員間で会議や申し送り時に本人本位で検討・意見・情報交換を行い、サービスの提供や情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面接時には、出来る限り自宅を訪問し生活状況を確認しながら家族や本人から生活歴を聞いている。また、担当ケアマネからも情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望を聞きながら日々の生活を援助している。記録も細かく行い、生活リズムを確認しながら定期的に家族も含めモニタリングをしている。		

【千葉県】グループホーム 輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者を中心に、本人や家族と話し合い希望等を聞いている。その意見を参考に主治医やリハビリ担当者、職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。	本人・家族の意向を確認しながら、会議で検討し、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを図っている。様々な形で家族とのコミュニケーションを取りながら、意見・要望を引き出し、希望やニーズに沿った介護計画を作成できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、普段と変わったことや気づいたことは必ず記録に残し、全職員で共通の情報とするとともに経過状況を家族に報告し、必要であれば介護計画を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族来園時には積極的に会話をする事でニーズをくみ取るよう努力している。家族の宿泊準備や別室の準備、町会等のサークル参加など出来る限り要望に応えるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の行事には積極的に参加し、普段は散歩や買物等で近隣の住民と交流することで介護に関してご理解いただき、ボランティア等で協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は家族や本人の希望で基本的に決めている。受診のための搬送や情報提供等も出来る限り行っている。	内科医・歯科医の往診を実施していると共に、希望のかかりつけ医への受診を支援しており、適切な医療受診を行っている。必要に応じて訪問リハビリや鍼灸師の利用も可能となっており、利用者一人ひとりの身体状況に応じた適切な医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師にはいつでも相談できる体制ができており、必要時にはすぐに主治医のいる病院に連絡及び相談できるように普段から話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院ができるいくつかの病院と協力体制を築いている。入院が必要になった場合、主治医から医療情報提供や施設からh普段の様子等の情報を提供している。入院中も定期的に情報確認し、退院時には担当医もしくは担当看護師とカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に意思確認書とともに重度化や終末期に関して施設の対応を説明している。主治医や協力病院の説明を行い、必要時には情報提供しながら対応していくことを説明している。	終末期・重度化における施設方針を契約時に説明し、同意を得ている。必要時には、家族や医師と相談し、意向に沿った支援を行っている。また、家族の希望に合わせた対応や切り替えができるよう、法人内の事業所や医療機関等とは協力体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、緊急時の対応に関して施設内研修や外部研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間や地震を想定した避難訓練を定期的におこなっている。避難訓練には消防署や地元の消防団員も参加されることもあり連携がとれている。	スプリンクラー・自動通報機・火災報知器等の消防設備を設置していると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。訓練では、夜間想定訓練等を実施しており、ケースに応じた避難方法の確認を行っている。その他にも、避難訓練時に職員が所属している地域消防団が参加する等、日頃から地域とは災害時の協力体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人研修や年1回の法人全職員を対象にしたプライバシー等の研修を行っている。また、1ヶ月に1度の職員会議でも気になる事を中心に話し合いをしている。	プライバシー保護・接遇・個人情報保護における研修を実施しており、職員に意義や理解の促進を図っている。声掛けや言葉使い等に十分注意すると共に、希望に応じて同性介助を実施する等、入居者のプライバシーに配慮した適切な支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間や飲物等、細かいことも本人に伺いながら行っている。食事内容や量、趣味活動も出来る限り本人の希望を聞きながら行っている。		

【千葉県】グループホーム 輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何か行動する時は、まず本人の希望を聞くことが基本となるよう、会議や研修で全職員の共通意識になるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は、本人に確認しながら衣類を選んでいる。また、外出時にはお化粧品や帽子などでおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と一緒に考えながら1週間ごとに作成している。また、買物も天候等もみながら一緒に行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。職員が入居者の希望や食材の在庫を考慮し、柔軟に変更しながら献立を作成している。定期的に外食行事の実施・特別職の提供等を行っており、食に対する楽しみを支援している。施設の敷地内にグループホーム専用の畑があり、収穫された野菜を活用しており、旬の食材や新鮮なものを取り入れる等、食事が入居者にとって活動の張り合いとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病や本人の身体状況をふまえて、水分量や食事摂取量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをしながら口腔ケアを行っている。また、定期的に歯科受診をし、口腔内の様子をチェックしており、歯科衛生士との相談できる体制が確立している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個別の排泄リズムや状態を把握できるよう努力している。各個人のリズムで声掛けを行い、必要に応じて使用下着を調整している。	排泄チェックリストを活用しながら個々のパターンを把握しており、状況や仕草を観察しながら声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。水分摂取の励行・乳製品の活用・運動の実施等を通じて、自然排便を促すと共に、必要に応じて、医師・薬剤師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	

【千葉県】グループホーム 輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は毎日行い、必要によっては毎日召し上がっているヨーグルトとオリゴ糖の他に牛乳を提供している。水分も声掛けで多めに飲んでいただいたりおやつに乳酸菌飲料も提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	契約時にも希望があれば毎日入浴できることを説明している。入浴時間も毎回本人に確認するとともに、拒否のある方にはタイムグをみて何回か声掛けをしている。	入居者の希望や体調に応じて、時間や回数を柔軟に調整し、週2以上の入浴を支援している。また、必要に応じて清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。併設施設の特殊浴槽を使用する事も可能となっており、入居者の身体状況に合わせた入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を聞きながら、居室や食堂のソファ等で休んでいただいている。夜間も本人のペースに合わせ、時には温かい牛乳等も飲んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と常に連絡をとりながら薬の管理ができる体制が確立している。また、薬はすべて分包化されており、誤薬を防ぐため会議等で服薬方法などを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや掃除、下膳等本人の意思を確認しながら行っている。作品づくりや散歩などもその日の天候や皆の希望をききながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日必ず声掛けをして行っている。また、買物も希望があればいけるよう努力している。花見等の外出行事には地域の方がボランティアとして参加していただける。	天候・体調・希望に応じて、散歩・買い物・ドライブ等を日頃から実施しており、戸外に出る機会を設けていると共に、敷地内での散歩・園芸・ひなたぼっこを実施しており、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。その他にも、定期的に外出行事を企画・実施しており、ボランティアや家族も参加し、戸外での楽しみを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の時にはお金をお渡しし、会計を行っている。また、本人が望まれた時は、お預かりしちる財布等をお渡ししている。		

【千葉県】グループホーム 輝陽園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族には24時間や面会は可能であることを契約時に話している。手紙は施設内に郵便配達員が回収にくるシステムがあるのでそれを利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には利用者と一緒に季節の飾りつけを行っている。温度や湿度も定期的を確認しており清掃も細めに行い汚れやにおいがないよう努力している。	共有スペースには、ソファ・テーブル・椅子が設置されており、自由にくつろげる環境整備がなされている。また、加湿器等も設置しており、温度・湿度を定期的を確認しており、空気の乾燥による感染症の予防にも努めている。ベランダが設置されており、外気浴・お茶のみに活用する等、気軽に外の空気を楽しめる環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の意思を確認しながら食堂の席や机の位置を決めている。必用に応じて机をならべ変えたりソファーを使用して仲間同士話ができるよう援助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器や大きさ、重さに特に問題なければ自由に家具を搬入していただいている。本人や家族の希望でカーテンを変えたりカーペットを敷く方もいらっしゃる。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。他にも、温水栓付きの洗面台が設置されており、利便性に配慮された設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全域バリアフリーとなっていて、前部屋に段差はない。廊下も広くとり車いすの自走が可能で、居室のドアも軽い力で開けることができ、ゆっくりと自然にしまる構造になっている。		